

第2章 本県における情報モラルの指導の現状

1 実態調査の概要

(1) 目的

本県の各学校段階における情報モラルの指導状況を調査し、その結果を基に取組の重点を明確にするとともに、指導計画例や実践例などを示すため。

(2) 内容

- ア 情報モラルの指導の必要性
- イ 情報モラルの指導の取組の状況
- ウ 教員の共通理解を図る取組の状況
- エ 情報モラルの指導に関する児童生徒の実態把握の状況
- オ 保護者への情報提供及び他機関との連携の状況
- カ 教科等における情報モラルの指導の状況
- キ インターネット等の利用実態の把握の状況
- ク インターネット利用上の問題発生時の対処方法の状況
- ケ 情報モラルの指導の推進に必要な取組の状況

(3) 対象

県内全ての公立小・中・高・特別支援学校

<小学校581校，中学校256校，高等学校80校(定時制2，通信制1を含む)，特別支援学校15校>

(4) 期間

平成21年10月19日～11月6日

(5) 方法

当教育センターWebサイト上での実態調査入力画面による回答

2 実態調査の結果と考察

ここでは、実態調査の一部を紹介する。

(1) 情報モラルの指導の必要性について

問1-(1) あなたの学校では、情報モラルの指導の必要性を感じていますか。

各校種とも95%以上の学校が「非常に感じている」又は「感じている」と答えている。特に「非常に感じている」は、校種が上がるにつれて増えている。

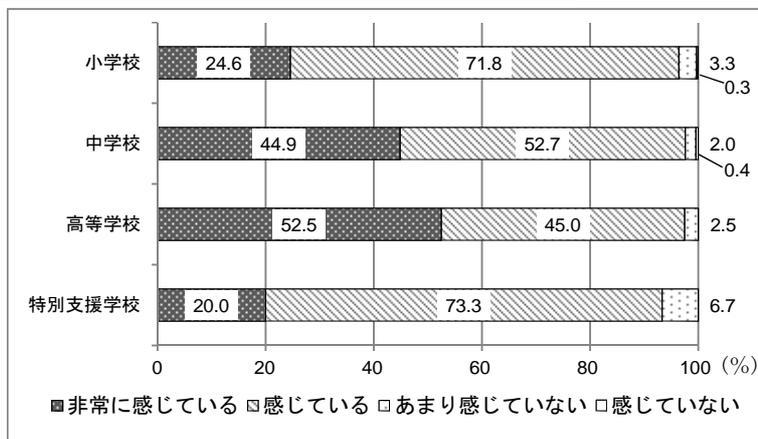


図5 情報モラルの指導の必要性

問1-(2) 「非常に感じている」又は「感じている」と回答した理由について答えてください。

情報モラルの指導の必要性を感じる理由では、どの校種でも「社会で様々な問題が起きており、児童生徒への指導が大切だと思うから」が最も多く、「インターネット上でのいじめ、有害情報などの問題が発生し、実際に学校で指導をしているから」は校種が上がるにつれて増えている。

情報モラルの指導の必要性を「あまり感じていない」、「感じていない」の理由の多くは、インターネットや携帯電話の利用が少ないことや、実際に問題が起きてないことなどである。

事故や被害を未然に防ぐためには、児童生徒がインターネットや携帯電話に触れるようになってから指導するのではなく、早い段階から無理のない範囲で情報モラルの指導に取り組むことが大切である。

このことから、情報モラルの指導を、身近で起きている問題として捉え、小学校段階から行うことが必要である。

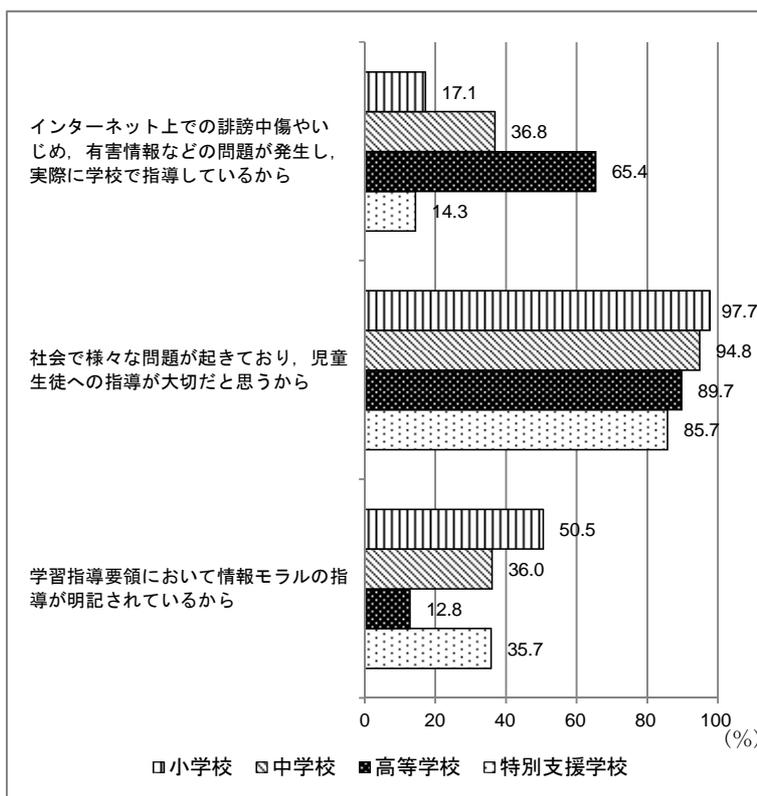


図6 「非常に感じている」又は「感じている」と回答した理由

(2) 情報モラルの指導の取組について

問2-(1) あなたの学校の情報モラルの指導は、十分に行われていると思いますか。

「十分行っている」と答えた学校は、全校種でも僅かであり、「ある程度行っている」、「行っているが十分でない」を合わせると8~9割に上り、全校種にわたって十分な指導が行われているとは言えない状況がある。

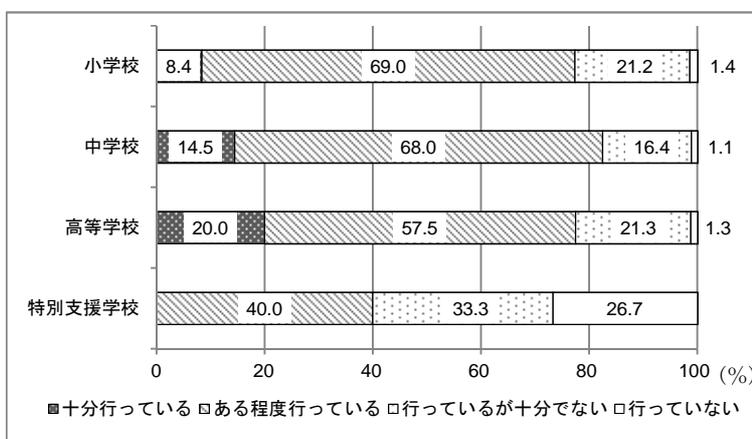


図7 情報モラルの指導の取組

問2-(2) 「行っているが十分でない」又は「十分ではない」と回答した理由を教えてください。

どの校種でも「職員の情報モラルの共通理解が十分でない」、「全体計画や年間指導計画などが無い」ことが多く、特別支援学校では「指導に用いる教材が無い」など、校種ごとの課題も示されている。

校種による多少の違いはあるが、共通理解を図るための職員研修や、全体計画・年間指導計画、指導に用いる教材が無いことなどに、学校の課題があることが分かった。

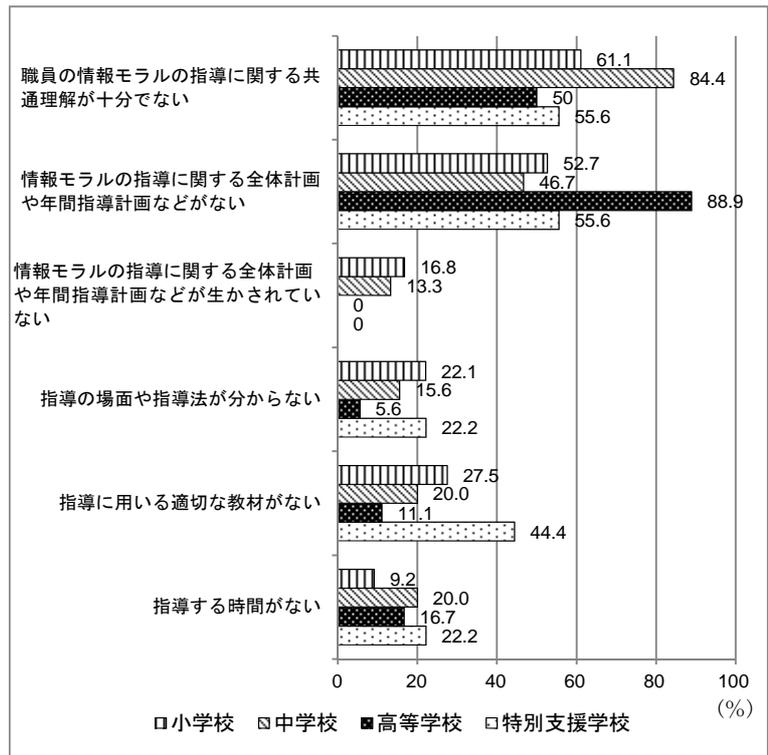


図8 「行っているが十分でない」又は「十分でない」理由

(3) 情報モラルの指導に関する児童生徒の実態の把握について

問3 あなたの学校では、情報モラルの指導に関して児童生徒の実態を把握するための調査を行っていますか。

「児童生徒へのアンケート調査」は、ほとんどの学校で実施されているが、「保護者へのアンケート調査」は、小・中学校で2～3割の実施と低く、高等学校では約1割の実施である。

家庭との連携を図る際には、児童生徒の実態を知らせるだけでなく、保護者へのアンケート結果と比較して示し、認識のずれを明確にすることも重要である。

「行っていない」と回答した主な理由としては、「少人数のため実態を把握できているから」、「ほとんどの児童生徒がパソコンや携帯電話を所持していないから」が多かった。

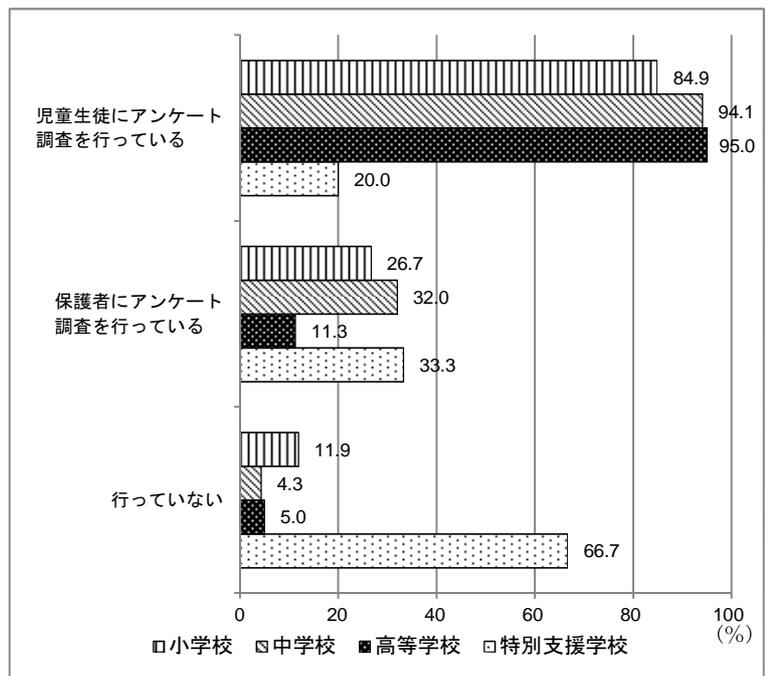


図9 情報モラルの指導に関するアンケート調査の実施状況

(4) 道徳の時間及び特別活動における情報モラルの指導について

問4 道徳の時間及び特別活動において情報モラルの指導を行っていますか。

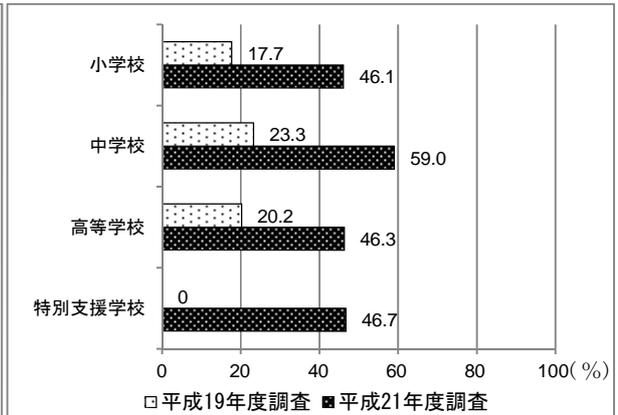
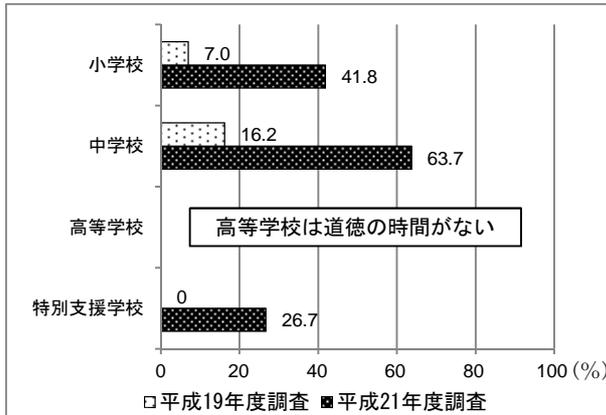


図10 道徳の時間に情報モラルの指導を行っている学校 図11 特別活動で情報モラルの指導を行っている学校

道徳の時間（高等学校を除く）及び特別活動で情報モラルの指導を行っている割合は、平成19年度に行った実態調査結果と比較すると、大幅に増えている。

学習指導要領で、情報モラルの指導を道徳教育で行うことが明記されており、人権教育等とも関連付けながら進めていくことが必要である。道徳の時間及び特別活動における情報モラルの指導を更に充実することが重要である。

(5) 情報モラルに関する具体的な指導について

問5 情報モラルに関して、具体的にどのような指導を行っていますか。

どの校種でも「日常生活におけるモラルと関連付けた指導」や「新聞記事やニュースの活用」などの指導が多く、学校で行われている。

しかし、「児童生徒同士の話し合いを通じた指導」及び「擬似的な体験をする学習活動を通じた指導」は、どの校種でも低い。

今後「情報モラルの重要性を実感できる」ことや「一方的に知識や対処法を教えるのではなく、児童生徒が自ら考える」ことが重要であり、これらの推進を図ることが必要である。

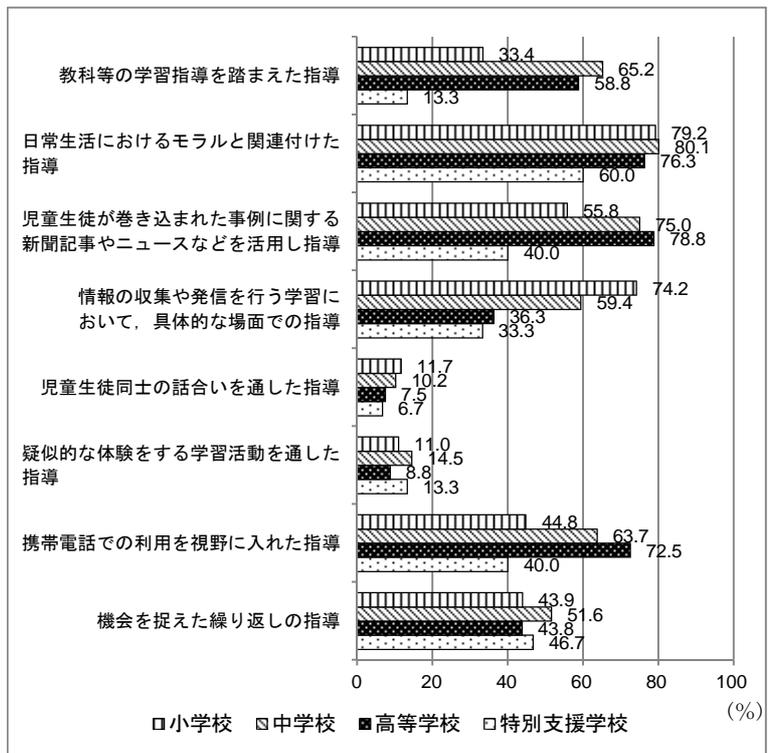


図12 情報モラルに関する具体的な指導

(6) 情報モラルの指導の推進に必要な取組について

問6 今後、あなたの学校で情報モラルの指導を推進する上で必要と思われる主な取組を3項目答えてください。

どの校種でも「職員研修」が最も多く、次いで「保護者との連携」の順となっている。

教科等における指導については、小学校が「総合的な学習の時間」、「道徳の時間や特別活動」、中学校は「道徳の時間や特別活動」、「各教科」、高等学校では「特別活動」、「各教科」の順となっており、その割合も校種ごとに違いがある。

第1章でも述べたように、情報モラルの指導は全ての教科等で行うべきものであり、どの教科等でどのように指導していくかについて教員の共通理解を図ることが必要である。

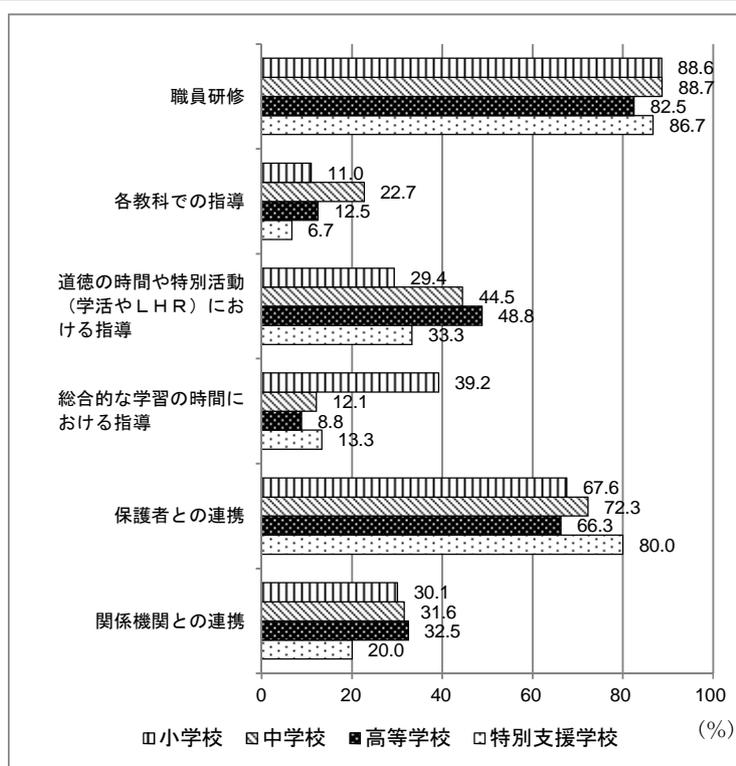


図13 情報モラルの指導の推進に必要な取組

3 調査結果による本県の課題

- (1) 学習指導要領で情報モラルの指導の充実が示され、小・中学校の道徳の時間と特別活動で情報モラルの指導を行っている学校が大幅に増えている。しかし、学校全体としての取組として十分に行われているとは言えない。そこで、道徳の時間を中核として教科等の学習内容と関連付けた情報モラルの指導の考え方や実践例を示したり、情報教育の年間指導計画に情報モラルの指導を位置付けた具体的な例を示したりするなどの情報提供が必要である。
- (2) 中・高等学校では、一部の教科を中心に情報モラルの指導が進められているが、各教科等の指導を含め、生徒の発達段階に応じた体系的な指導を推進する必要がある。
- (3) 情報モラルの指導内容として、児童生徒に疑似体験をさせたり、話し合いをさせたりなどの指導がなされていない現状があり、体験を基にした実感を伴った指導が進められるように、具体的な指導事例等を示す必要がある。
- (4) 「情報モラルの指導を推進する上で今後必要な取組」についての実態調査では、全ての校種で「職員研修」が最も多かったことから、学校全体で取り組むための職員研修の具体的な実践事例を示す必要がある。
- (5) 情報モラルの指導を進めるための年間指導計画の作成を課題としている学校が多いことから、「知恵を磨く領域」と「心を磨く領域」をバランスよく指導するための具体的な事例を示す必要がある。
- (6) 「保護者との連携」を課題としている学校が多く、具体的な連携の事例を示す必要がある。